

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第一中学校 校長名：森元 隆之

【経営理念】

(1) 基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を目指し、授業の充実・改善を図り、心身ともに健やかな生徒が育つ学校

(2) 地域との連携を図り、地域から学び、地域に貢献できる生徒が育つ学校

(3) 道徳的心情や道徳的実践力を身に付けることを目指し、心豊かな生徒が育つ学校

| 評価 | |
|----|-------------------|
| A | 十分に達成している。(80%以上) |
| B | 概ね達成している。(60%以上) |
| C | あまり十分でない。(40%以上) |

【学校運営協議会・会長】 小泉 亨 (第43代 PTA 会長)

学校運営協議会 (学校評価分)

第1回 令和 7年 6月12日 (木)

第2回 令和 7年11月14日 (金)

第3回 令和 8年 2月 6日 (金)

| 項目 | 計画・取組 | | | 自己評価 (令和8年1月23現在) | | | | 学校関係者評価 | |
|------------|-------------------------------------|---|---|-------------------|----|--|--|--|----|
| | 重点目標 | 具体的取組 | 評価指標・目標値 | 到達度 (%) | 評価 | 分析コメント | 今後の改善方策 | 意見 | 評価 |
| 確かな学力の向上 | ① 生徒の基礎学力の定着 ② 教師の授業力の向上 | ① 定期考査前の家庭学習週間の学習計画表の作成を通して家庭学習を定着させる。 ① 夏休みの補習教室や第三学年を対象とした地域未来塾を活用し、学習意欲の向上を図る。 | 【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。 | 80 | A | 同一学習集団分析 国語 中1時 53.1→今年度 62.6 数学 中1時 46.6→今年度 40.8 数学の1次関数の正答率が大幅に低いための結果と考える。 | 基礎学力の定着に向け、朝学習の充実や放課後の補習教室の設置を計画的に実施する。また、一中校区の教員の授業力向上をテーマに、連携した指導法を研究する。 | 生徒が安心して学習できる環境を継続できている。個別の点数の上下でなく、学習への意欲作りに一中校区で連携して取り組んでほしい。 | A |
| | | ② 全教員が学習の内容やねらいに応じてICTを活用する。 ② 同教科・学年間で授業参観を学期に1回以上行い、意見交流を行う。 | 学校評価の「授業の分かりやすさ」に関する質問項目で肯定的回答をする生徒を80%以上 | 90 | A | 学校評価の授業の分かりやすさについて72.1%、また、ICTの活用による授業理解の向上について、77.1%の生徒が肯定的に捉えている。落ち着いた授業が行えているが、数学や英語の単級授業の影響も考えられる。 | 授業の分かりやすさについては、昨年度より-5.6%、分かりにくいと感じているが2.6%いる現状を考え、個に応じた指導及び個別指導の在り方や工夫を充実させる。 | 公開授業の様子から先生方が共同して授業の工夫に取り組んでいる様子が感じられ、分かり易い授業になっている。 | A |
| 豊かな心の育成 | ① いじめの撲滅 ② 生徒の規範意識の醸成 | ① 「いじめ」をテーマにした道徳の授業を年1回以上行い、考えを深めたり交流したりする。 ① 『人権教育プログラム』を活用した授業の実施。教員への研修の実施 | 学校評価の「学校生活、生き方、悩みが生じたときの対応」に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を80%以上 | 90 | A | 相談のしやすさについて生徒は70.3%(昨年度より+4.1)、保護者は62.8%(昨年度より-2.2)が肯定的に捉えている。保健室経営の工夫もプラスに影響していると考えられる。 | 教員の業務の効率化を一層図ることで、生徒や保護者と向き合う時間を増やし、教育センターやSCにつなげやすい環境づくりを定着させる。 | 生徒が悩みを相談しやすい環境が構築できている。 | A |
| | | ② キャリア教育(進路学習)の中で礼儀作法について学ぶ場を設定 ② 校区の小学校と連携したあいさつ運動を学期ごとに実施 | 学校評価の「挨拶や自治的活動、生き方」に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を80%以上 | 71 | B | 挨拶や自治的活動、生き方の学習に関して生徒は85.3%が肯定的に捉えているが、保護者は65.2%と認識のずれが大きい。生徒の行動が、校内外で異なっているものと考えられる。 | 学校外でも挨拶や、集団の中でより良い人間関係を、自主的・実践的に形成できるように、家庭と連携しながら、道徳授業や特別活動を中心に指導の充実を図る。 | 外部の訪問者に対する挨拶はいまだしの感が強い。大人と生徒と双方で誰にでも挨拶できる雰囲気醸成したい。 | B |
| 健やかな体の育成 | 生涯スポーツにつながる体育科の授業の充実 | 珍しいスポーツ(ラート等)を体験する機会を設けたり、市民駅伝競走大会と体育科の持久走を関連させたりするなどカリキュラムマネジメントに取り組み、生徒の運動に対する意欲を高める。 2種目以上の競技で専門家を講師に招いた体育の授業の実施。 | 【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。 学校評価の「運動やスポーツ」に関する質問項目で肯定的回答をする生徒を70%以上 | 100 | A | 男子65.1・女子81.0%と目標値を上回る結果となった。同一集団における経年変化では、男子は+14.5、女子は+28.7と全国の上昇率と同程度に上昇し、体力水準の改善が一定程度進んでいる状況が考えられる。また、学校評価においても、79.6%の生徒が肯定的に捉えている。マット運動やダンスで、専門家を講師に招いた授業の効果も大きいと考える。 | 次年度も引き続き、体力向上及び運動意欲を高める取組を推進する。持久力や敏捷性に関わる種目で、都・全国と同等の値が出せるように、指導の充実を図る。 | 生徒のスポーツへの関心は高いものがあり、いろいろな体験機会をこれからも増やして、生徒の自発的な運動への取り組みを向上させてほしい。 | A |
| まちづくり学習の充実 | ① 総合的な学習の時間の充実 ② 地域への愛郷心がある生徒の育成 | ① 学校のテーマ「自らの生き方を考える」と学年のサブテーマ「村山とともに生きる」(1年生)「村山から外へ」(2年生)「未来へ向かって」(3年生)を関連させた授業の実施 | 【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上 | 78 | B | 学校評価で、生徒は51.8%、保護者は58.5%が肯定的に捉えている。各学年の川越、都内、修学旅行などの行事とまちづくり学習を関連させた結果ではあるが、発信手段の形骸化が考えられる。 | ①②を総合的に見れば、概ね目標値に達成していると考えられるが、まちづくり学習やボランティアへの取組が、地元への愛着の向上やキャリア教育の育成を図る大切な学習であることを、引き続き展開していく。また、発信手段の工夫・改善をすることで、生徒に実感として残るようにする。さらに、学校評価のアンケート内容をわかりやすい言葉に変え、生徒が回答しやすいようにする。 | チイキチイキフェスティバルで地域の人たちの活動に触れることが大切な経験になっている。それをまちづくり学習やボランティア活動への参画意識につなげてほしい。 | B |
| | | ② 教科の学習や行事等において地域人材を活用した活動の実施 ② クリーン作戦やさくら祭りなど地域行事やボランティア活動への生徒の参加 | 学校評価の「地元への愛着」に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を80%以上 | | | ボランティアに関する学校評価で、生徒は参加の有無について28.6%、保護者は学校の機会の提供について83.0%が肯定的に捉えている。モノレール延伸が確定したことの影響も考えられる。 | | | |
| 学校裁量 | 開かれた学校の推進 | 学校ホームページやX(旧Twitter)を活用した情報発信の強化。 | 月に1回以上配信する。 学校評価で保護者による各項目の「分からない」を20%以下 | 86 | A | 授業におけるグループ学習やICTの活用、まちづくり学習の回答で「分からない」が20%を上回った。Xの更新をタイムリーに行った結果と考える。 | 学校ホームページやXを活用した情報発信をさらに保護者の求めるものに近づくよう工夫する。 | ITを活用した情報発信が定着してきていると感じる | A |